

2019 年度事業報告

(2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)

日本気象学会は2013年4月1日に公益社団法人に移行し、定款第3条のとおり「気象学、大気科学等の研究を盛んにし、その進歩をはかり、国内及び国外の関係学協会等と協力して、学術及び科学技術、並びに文化の振興及び発展に寄与すること」を目的として、2019年度も定款第4条で定める以下の事業を推進した。

- ・ 気象学、大気科学等に関する研究会及び講演会等の開催
- ・ 機関誌その他気象学、大気科学等に関する図書等の刊行
- ・ 研究の奨励、援助及び研究業績の表彰
- ・ その他この目的を達成するために必要な事業

I 気象学・大気科学等に関する研究会及び講演会等の開催事業の実施（公益目的事業 1）

気象学・大気科学に関する研究成果や最新の知見を、大会における講演発表、公開気象講演会、各支部における研究報告会並びに普及活動等を通じて社会に公表し、学術及び科学技術、並びに文化の振興及び発展を図った。

1. 研究会等の開催

(1) 全国大会

春季並びに秋季に開催している全国大会は、会員等が研究及び調査の成果を発表する研究集会であり、2019年度は、春季は東京を秋季は仙台を開催地として、以下のとおり開催した。各大会は講演企画委員会と担当機関内に設置された実行委員会が協力して、企画運営を行っている。

春季・秋季大会の発表論文の予稿（要約を1ページに掲載）を全て掲載した「大会講演予稿集」を、2019年度から大会の活性化を目的に大会参加者に事前に電子媒体で配布した。

① 2019 年度春季大会

期 日：2019 年 5 月 15～18 日

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター

担 当：東京大学大気海洋研究所

参加者：692 名

講演数：専門分科会 40 件、口頭発表 156 件、ポスター発表 103 件、合計 299 件

シンポジウム：「多層階層システムとしての気候の研究」（5 月 17 日）

② 2019 年度秋季大会

期 日：2019 年 10 月 28 日～31 日

場 所：福岡国際会議場

担 当：福岡管区気象台、九州大学

参加者：707 名

講演数：専門分科会 71 件、口頭発表 191 件、ポスター発表 180 件、合計 442 件

(2) 調査研究会

我が国に発生した気象災害に関する調査研究会として、「フェーズドアレイレーダーによる気象災害研究の新展開」をテーマに気象災害委員会がメソ気象研究連絡会と共催で、福岡市で開催した（2019年10月27日）。

(3) 研究連絡会

研究連絡会は会員の自主的な発議に基づき、理事会の承認を得て設置されており、若干の世話人を中心に運営されている。現在合計 15 の研究連絡会が設置されており、以下の 13 研究連絡会が合計 14 回の研究会を、主に春季・秋季大会の期間中に開催した。

研究連絡会	期日	場所	テーマ
台風	2019 年 4 月 15～16 日	名古屋	台風セミナー2019
メソ気象、台風、観測システム・予測可能性	2019 年 5 月 14 日	東京	線状降水帯・台風予報の精度向上に向けて取り組むべき課題
寒冷域・極域	2019 年 5 月 15 日	東京	南極の広域をより高い精度で観測する
気象学史	2019 年 5 月 17 日	東京	20 世紀の気候変動と人為的エアロゾルの影響

気象災害、メソ気象	2019年10月27日	福岡	フェーズドアレイレーダーによる気象災害研究の新展開（気象災害委員会と共催）
統合的陸域圏	2019年10月30日	福岡	林野火災が生み出す気候と生態系のフィードバック
気象学史	2019年10月30日	福岡	地形から見た気象災害の歴史
気候形成・変動機構	2019年10月30日	福岡	気候形成・変動に関する素朴な疑問
観測システム・予測可能性	2019年11月14～15日	宇治	異常気象の発現メカニズムと大規模大気海洋変動の複合過程
非静力学数値モデル	2019年11月21～22日	津	第21回非静力学モデルに関するワークショップ
長期予報	2019年12月2日	東京	海洋の年々変動と大気循環～海洋現象と日本の天候の関係を変えて考える～
熱帯気象	2019年12月26日	富山	第11回熱帯気象研究会
航空気象	2020年2月7日	東京	第14回航空気象研究会
天気予報	2020年2月15日	東京	第17回天気予報研究会

(4) 気象研究コンソーシアム

気象研究コンソーシアムは、日本気象学会と気象庁とで締結された包括的な共同研究契約「気象庁データを利用した気象に関する研究」に基づく枠組みである。2019年度におけるこの枠組みを利用した研究課題数は、48件である。

(5) 他学会との共催等

他学会と共催で、気象学・大気科学に関する研究会やシンポジウム等を実施し、研究成果の公開に努めると共に、関連分野の研究者との情報交換・情報共有に努めた。2019年度は以下の会合等を開催した。

① 原子力総合シンポジウム 2019

主催：日本学術会議 総合工学委員会（2019年12月2日：日本学術会議講堂）

② 第56回アイソトープ・放射線研究発表会

主催：日本アイソトープ協会（2019年7月3～5日：東京大学弥生講堂）

気象学会から委員を選出し運営に参画している。

③ 第36回エアロゾル科学・技術研究討論会

主催：日本エアロゾル学会（2019年9月5～6日：広島大学東広島キャンパス）

④ 第33回数値流体力学シンポジウム

主催：日本流体力学会（2019年11月27～29日：北海道大学）

⑤ 第5回理論応用力学シンポジウム

主催：日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同力学基盤工学分科会
（2019年12月9日：日本学術会議講堂）

(6) 支部研究会活動

各支部において年1～4回、地域特有の現象等に関する気象学・大気科学の研究成果の発表会を行い、成果の公開に努めると共に、研究者間での情報交換・情報共有に努めた。2019年度は以下のとおり実施した。

① 北海道支部 ア 第1回研究発表会 2019年7月2日（札幌市）（参加者約25名）

イ 第2回研究発表会 2019年12月18～19日（札幌市）（参加者約40名）

② 東北支部 支部研究会 2019年12月2日（仙台市）（参加者約60名）

③ 中部支部 支部研究会 2019年11月28～29日（富山市）（参加者約65名）

④ 関西支部 ア 第1回支部例会 2019年12月6～7日（高松市）（参加者約35名）

イ 第2回支部例会 2019年12月21日（岡山市）（参加者約25名）

ウ 第3回支部例会 2019年12月22～23日（大阪市）（参加者約30名）

⑤ 九州支部 支部発表会 2020年3月1日（福岡市）新型コロナウイルス感染症対策のため中止。

要旨集のみ発行。発表申し込み17題

⑥ 沖縄支部 支部研究会 2020年2月27日（沖縄科学技術大学院大学）新型コロナウイルス感染症対策のため中止。要旨集のみ発行。

(7) その他

① 日本気象学会夏期特別セミナー（若手会 気象夏の学校）開催への援助

本セミナーは、若手研究者の研究発表の実施並びに最先端の研究を行う気象研究者による講演を行うこと

により、若手研究者相互の交流や研究意識を高めることを目的としており、日本気象学会が援助を行っている。2019年度は、以下のとおり行われた。

- ・日付：2019年8月27～29日
- ・場所：茨城県立中央青年の家（土浦市）
- ・内容等：招待講演（講師4名の方々による講演）、一般講演（参加者全員が口頭発表）
- ・参加者：74名

2. 一般向け普及・啓発活動

(1) 公開気象講演会

公開気象講演会は、教育と普及委員会が中心となって、一般市民の方々に気象に関する最近の研究成果を分かりやすく解説することを目的として、春季大会開催時に開催している。2019年度は以下のとおり実施した。

- ・日付：2019年5月18日
- ・場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・テーマ：新元号を迎えて～平成の30年間を振り返り、新時代の気象災害に備える～

(2) 第53回夏季大学

夏季大学は、最新の気象学の知識の普及を目的に、小中高校の教職員や、気象の愛好家を対象とした、やや専門性の高い講座で、教育と普及委員会が中心となって毎年度開催している。2019年度は以下のとおり実施した。

また、同様の活動は以下の(5)で示すように、各支部においても実施している。

- ・日付：2019年8月3日（土）～4日（日）
- ・場所：気象庁講堂
- ・テーマ：降雪・積雪予測と雪氷防災の最前線

(3) 気象サイエンスカフェ

気象サイエンスカフェは、日本気象学会と日本気象予報士会が共催する「気象の専門家や有識者」と「その話を聴いたり話したりしてみたい方」との科学コミュニケーションの場として、2006年春に東京でスタートした。現在は各支部を中心に全国各地で開催している。2019年度の開催状況は以下のとおりである。また、同様の活動は(7)で示すように、各支部においても実施している。

- ①日付：2019年6月8日、場所：東京都（東京理科大学理窓会第2会議室）、テーマ：台風～君は台風列島で生き延びることができるか？～
- ②日付：2019年8月7日、場所：さいたま市（With You さいたま、テーマ：「熊谷 vs 多治見」暑いのどっち？
- ③日付：2019年11月30日、場所：東京都（一般社団法人日本気象協会会議室）、テーマ：南極の千本のアンテナでグローバルな気候結合を調べる

(4) ジュニアセッションの開催

ジュニアセッションは、気象学に興味を持つ主に高校生・高専生（中学生も可）を対象に、生徒達が気象学会の大会会場において、専門家の前で発表体験をすることにより、生徒達の気象学に対する興味や探究心が高まり、学会としての社会貢献にとどまらず、将来の気象学の発展とより豊かな社会の招来に繋がることを期待して開催している。2019年度は、以下のとおり、第5回を実施した。なお、本事業は小倉義光・正子基金から、ジュニアセッションで発表する生徒らの旅費等を補助した。

- ・日付：2019年5月18日
- ・場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・参加校数、発表件数：16校、34件

(5) 先生のための気象教育セミナー

気象に関する教育支援を目的とした毎年開催している「気象教育懇談会」を「先生のための気象教育セミナー」に名称を変更し開催した。2019年度は、温暖化、気候変動、防災を話題とした。なお、本事業は小倉義光・正子基金から資金補助を受けて実施した。

- ・日付：2020年1月5日
- ・場所：一般財団法人日本気象協会会議室
- ・参加者：中学校・高等学校教員

(6) 「女子中高生夏の学校2019～科学・技術・人との出会い～」に出展

教育と普及委員会と人材育成・男女共同参画委員会が協力して、独立行政法人国立女性教育会館が女子中高生を対象に開催した「女子中高生夏の学校」においてポスター展示とキャリア相談のブースを設置した。このイベ

ントは女子中高生が「科学技術にふれ」、科学技術の世界で生き生きと活躍する女性たちと「つながり」、科学技術に関心のある仲間や先輩とともに「将来を考える」機会として、平成17年度より毎年開催されている。

- ・日付：2019年8月9日～11日
- ・場所：国立女性教育会館（NVEC）

(7) 支部普及活動

各支部において、それぞれの地域の実情に応じて、「気象講演会」、「サイエンスカフェ」、「ジュニアセッション」、「こども気象学教室」、「離島お天気教室」等、一般市民並びに子供を対象に普及活動に努めている。2019年度は以下の活動を実施した。

支部	活動	日付	場所	内容	参加者
東北	気象講演会	2019年12月7日	弘前市	気象と漁業 Chain of changes—気候変動がもたらす極端な気象現象と水産資源の変化の連鎖—	約130名
	サイエンスカフェ	2019年11月16日	仙台市	わが町の気候変動どうやって予測する？	約20名
中部	公開気象講座	2019年6月16日	名古屋市	台風	約120名
	サイエンスカフェ	2019年11月17日	名古屋市	雨の予測から防災の情報へ	約45名
	サイエンスカフェ	2019年11月30日	高岡市	宇宙から観る雲と雨	約20名
	サイエンスカフェ	2020年2月16日	名古屋市	強い寒波や豪雪をもたらす北極温暖化と海水の激減	約50名
関西	夏季大学	2019年8月17日	京都市	地球温暖化と異常気象	約110名
	講演会	2019年12月6日	高松市	地球温暖化のこれまでとこれから	約35名
	講演会	2019年12月21日	岡山市	大陸陸面データ同化による局地循環性降水の予測精度向上に向けて	約25名
	講演会	2019年12月22日	大阪市	波浪による高潮と高波について	25名
	サイエンスカフェ	2020年2月1日	大阪市	気象予報士試験に合格したいっ!!	約10名
九州	気象教室	2020年1月13日	福岡市	地球温暖化、その原因と正体に迫る—旅客機・人工衛星がとらえた温室効果ガス—	約70名
	サイエンスカフェ	2019年11月30日	鹿児島市	かごんまお天気百話—地球温暖化時代を生き抜くために—	約30名
	サイエンスカフェ	2020年2月15日	福岡市	航空機と気象—安全で快適な飛行の裏側で—	約30名
	ジュニアセッション	2020年3月1日 支部発表会のセッションとして実施	福岡市	3校4課題の発表申し込み 新型コロナウイルス感染防止のため中止。要旨集のみ発行。	—
沖縄	子ども気象学教室	2019年7月31～8月2日	那覇市	日本気象予報士会沖縄支部、沖縄気象台、(株)FMとよみと共催	約45名
	離島お天気教室	2019年12月13日	北大東島	南大東地方気象台と共催	約40名
	離島お天気教室	2019年12月17日	与那国島	石垣島地方気象台と共催	約160名
	防災気候講演会	2019年12月12日	北大東島	南大東地方気象台と共催	約25名
	防災気候講演会	20120年1月11日	那覇市	沖縄気象台、沖縄県等と共催	約170名
	防災気象講演会	2020年2月19日	竹富町	石垣地方気象台、竹富町等と共催	約10名
	サイエンスカフェ	2020年2月1日	那覇市	不思議な気象現象を映像で考える	約40名

(8) その他

①気象予報士CPD制度の支援

2016年度に引き続き、気象予報士の気象技能の継続的な研鑽を目的としたCPD（Continuing Professional Development）制度を支援している。適切なCPDポイントを設定するためのCPD認定委員会に、気象学会から3名の委員が選任されている。

②教育活動の拡充（関西支部）

- ・夏季大学に合わせて、大学で気象学を学びたい高校生や気象の知識を活かした就職を希望する方を対象にした「気象関係合同進路説明会」を実施（参加総数は18名）。
- ・夏季大学に高校生の参加費を無料にする促進策を実施（28名の応募があり、うち26名が参加）。

II 機関誌その他気象学・大気科学等に関する図書等の刊行事業の実施（公益目的事業2）

気象学・大気科学に関する研究成果や最新の知見を、刊行物によって社会に公表することを通じて、学術及び科学技術の振興と発展を図っている。2019年度は、以下の1～4の4種類の図書の刊行を行った。

1. 機関誌「天気」の刊行

「天気」は、和文の査読つき論文、気象学・大気科学に関する解説、学術集会の報告、その他日本気象学会や関連学会等の情報などを掲載した月刊の機関誌である。編集作業等は、全国の会員40名余りで構成された天気編集委員会が担当している。

2019年度は「第66巻4号～第67巻3号 計760ページ」を刊行した。また、冊子体の発行からおよそ1ヵ月後に、電子ジャーナル版を公開している。

2. 英文論文誌「気象集誌」の刊行

「気象集誌 (Journal of the Meteorological Society of Japan)」は、英文の査読つきオリジナル論文及びレビュー論文のみを掲載する隔月刊の論文誌である。編集作業等は、海外の研究者を含む30名余りで構成された気象集誌編集委員会が担当している。

2019年度は「第97巻2号～第98巻1号 計1206、論文64編」を刊行した。また、2016年の投稿論文から冊子体刊行に先んじて電子ジャーナル版を公開している。

一方、日本学術振興会から（科学研究費補助金：研究成果公開促進費）を受け、2019年度から5ヵ年計画で「国際情報発信強化の取組」を進めている。取組の目的はJMSJ/SOLAのさらなる国際情報発信を強化し、両誌の質の向上を図り、気象学分野を国際的にリードする専門紙としての地位を確立することにある。このため、2019年度は、気象集誌とSOLAとの連携を強化し、広報体制の拡充によるvisibilityの向上、査読、出版プロセスの迅速化等を図った。

3. 英文レター誌「SOLA」の刊行

「SOLA」は、速報性を重視したWeb上（電子版）のみで公開する英文の査読つきレター誌である。速報性を重視しているため、1編の英単語数の上限を3100語（約4ページ相当）としている。編集作業等は、海外の研究者を含む40名余りで構成されたSOLA編集委員会が担当している。

2019年度は「第15巻、第15A巻、第16巻、計313ページ 論文53編」を刊行した。

一方、日本学術振興会から（科学研究費補助金：研究成果公開促進費）を受け、2019年度から5ヵ年計画で「国際情報発信強化の取組」を進めている。取組の目的はJMSJ/SOLAのさらなる国際情報発信を強化し、両誌の質の向上を図り、気象学分野を国際的にリードする専門紙としての地位を確立することにある。このため、2019年度は、気象集誌とSOLAとの連携を強化し、広報体制の拡充によるvisibilityの向上、査読、出版プロセスの迅速化等を図った。

4. 「気象研究ノート」の刊行

「気象研究ノート」は気象学・大気科学の最新の知見や技術について、テーマごとに詳細に解説を掲載した不定期刊行の学術誌である。編集作業等は、委員12名で構成された気象研究ノート編集委員会が担当している。

2019年度は、239号「南岸低気圧による大雪Ⅰ：概観」、240号「南岸低気圧による大雪Ⅱ：マルチスケールの要因」、241号「南岸低気圧による大雪Ⅲ：雪氷災害と予測可能性」を刊行した。

III 研究の奨励、援助および研究業績の表彰事業の実施（公益目的事業3）

学術及び科学技術の振興及び発展を図ることを目的に、気象学・大気科学に関する個人またはグループの優秀な研究・教育・普及活動等の業績を顕彰している。

また、若手研究者を対象に、国外での学術研究会への参加に際しての旅費等の援助を行うとともに、我が国で開催する学術研究会への国外からの参加を促すために、旅費等の支援を実施している。これらの活動を行うことにより、国際学術交流を推進している。

1. 研究業績の表彰

(1) 日本気象学会の表彰

2014年度からは、新たに岸保賞を設けると共に、従来の山本・正野論文賞の主旨を継承発展させた正野賞と山本賞の2つの賞を新たに設けた。また、2018年度からは、優れた発表をした学生を顕彰する松野賞を設けた。これにより、日本気象学会賞、藤原賞、岸保・立平賞、堀内賞、正野賞、山本賞、小倉奨励賞、松野賞の8つの賞となり、気象学・大気科学の多様な分野と学生を含む多様な世代の優れた研究者を幅広く顕彰することが可能となり、奨励事業の拡充を図ることができた。

それぞれの賞に対する候補者推薦委員会より推薦された候補者について、理事全員の投票により受賞者を決定している。

この他、気象集誌論文賞並びに SOLA 論文賞は、それぞれの編集委員会が決定している。2019年度は以下の通り顕彰を実施した。

賞	受賞者	業績又は対象論文
日本気象学会賞	原圭一郎 (福岡大学)	極域エアロゾルシステムの動態に関する観測的研究
	増永浩彦 (名古屋大学)	複合的な衛星観測データの解析による熱対流力学の研究
藤原賞	新野 宏 (東京大学)	大気中の渦・乱流等メソスケール気象に関する先駆的研究ならびに気象学・気象業務発展への貢献
	林 祥介 (神戸大学)	地球流体力学・惑星気象学の推進ならびに関連知見集積のための情報基盤の構築
岸保・立平賞	青梨和正 (気象研究所) 久保田拓志 (宇宙航空研究開発機構)	衛星観測による全球降水マップの開発と社会での実利用推進に関わる功績
堀内賞	金谷有剛 (海洋研究開発機構)	分光学的手法を用いた観測によるアジア大気汚染の統合的理解の推進
正野賞	今田由紀子 (気象研究所)	気候モデルを用いた短期気候変動予測研究および極端気象に対する温暖化寄与推定の研究
	佐藤陽祐 (北海道大学)	全球雲解像モデルを用いたエアロゾル・雲相互作用に関する先端的研究
山本賞	道端拓朗 (九州大学)	数値気候モデルと衛星観測の複合利用によるエアロゾル・雲・降水相互作用に関する研究
	横田 祥 (気象庁)	データ同化とアンサンブル予報を用いたスーパーセル竜巻の発生要因と予測に関する研究
小倉奨励賞	高野哲夫 (株式会社 SnowCast/ 日本気象予報士会)	山形県及び新潟県の気象解析のための数理モデルの開発
	中山秀晃 (東京都立小平高等学校/ 日本気象予報士会)	WebGIS を活用した関東地方の雨雪判別と降雪情報の開発
松野賞	高須賀大輔 (東京大学)	MJO の発生・東進過程における混合ロスビー重力波の役割
	星 一平 (新潟大学)	北極-中緯度気候リンクにおける QBO 位相依存性
	岩切友希 (東京大学)	完新世中期における ENSO の弱化メカニズム
	塚田大河 (北海道大学)	ひまわり 8 号を用いた台風内部コア領域の風速推定
	藤原圭太 (九州大学)	黒潮の潜熱フラックス増加実験でみられた秋台風の発達抑制
	鈴木健斗 (東北大学)	関東地方に発生する沿岸前線の MSM 予報バイアスに関する解析(2)
	田村健太 (北海道大学)	日本海北東部における小低気圧の発生に対する Sikhote-Alin 山脈の効果

松野賞	小新 大 (東京大学)	中層大気のデータ同化におけるフィルタリング
	春日 悟 (新潟大学)	寒冷渦・トラフを連続的に捕捉する新客観的強度指標の提唱
	勝山裕太 (北海道大学)	混合確率分布の粒径・落下速度分布への適用
気象集誌 論文賞	尾瀬智昭 (気象研究所)	Tomoaki OSE, 2019: Characteristics of Future Changes in Summertime East Asian Monthly Precipitation in MRI-AGCM Global Warming Experiments. <i>J. Meteor. Soc. Japan</i> , Vol. 97, No. 2, 317-335(2019), doi: 10.2151/jmsj.2019-018
	Boqi LIU, Congwen ZHU, Jingzhi SU, Shuangmei MA, Kang XU	Boqi LIU, Congwen ZHU, Jingzhi SU, Shuangmei MA, Kang XU, 2019: Record-breaking northward shift of the western North Pacific Subtropical High in July 2018. <i>J. Meteor. Soc. Japan</i> , Vol.97, No. 4, 913-925 (2019), doi: 10.2151/jmsj.2019-047
	行本誠史・川合秀明・神代 剛・大島 長・吉田康平・浦川昇吾・辻野博之・出牛 真・田中泰宙・保坂征宏・藪 将吉・吉村裕正・新藤永樹・水田 亮・小畑 淳 (気象研究所)、足立恭将 (気象庁)、石井正好 (気象研究所)	Seiji Yukimoto, Hideaki Kawai, Tsuyoshi Koshiro, Naga Oshima, Kohei Yoshida, Shogo Urakawa, Hiroyuki Tsujino, Makoto Deushi, Taichu Tanaka, Masahiro Hosaka, Shokichi Yabu, Hiromasa Yoshimura, Eiki Shindo, Ryo Mizuta, Atsushi Obata, Yukimasa Adachi, Masayoshi Ishii, 2019: The Meteorological Research Institute Earth System Model Version 2.0, MRI-ESM2.0: Description and Basic Evaluation of the Physical Component. <i>J. Meteor. Soc. Japan</i> , Vol. 97, No. 5, 931-965 (2019), doi: 10.2151/jmsj.2019-051
	露木 義 (気象大学校)	Tadashi Tsuyuki, 2019: Ensemble Kalman Filtering Based on Potential Vorticity for Atmospheric Multi-scale Data Assimilation. <i>J. Meteor. Soc. Japan</i> , Vol. 97, No.6, 1191-1210 (2019), doi: 10.2151/jmsj.2019-067
SOLA 論文賞	今田由紀子 (気象研究所)、渡部雅浩 (東京大学)、川瀬宏明 (気象研究所)、塩籠秀夫 (国立環境研究所)、荒井美紀 (東京大学)	Yukiko Imada, Masahiro Watanabe, Hiroaki Kawase, Hideo Shiogama, and Miki Arai, 2019: The July 2018 High Temperature Event in Japan Could Not Have Happened without Human-Induced Global Warming". SOLA, 2019, Vol.15A, pp.8-12, doi:10.2151/sola.15A-002.

(2) 支部における顕彰

北海道支部では、会員の研究の奨励推進の一環として、支部における活動で業績のあったものや支部研究発表会で優れた講演をおこなったものを顕彰している。2019年度は以下のとおり、5名を顕彰した。

受賞者：支部賞 佐藤友徳 (北海道大学)

支部発表賞、初塚大輔、塚田大河、佐藤陽祐、(以上、北海道大学)、森川浩司 (札幌管区気象台)

中部支部では、若手会員または研究を本務としない会員で、「気象学の向上に資する研究を行っている」、「気象学の教育・普及活動が特に顕著」、「気象学を応用することにより社会に貢献している」に該当するものを顕彰している。2019年度は以下のとおり、1名を顕彰した。

受賞者：野澤理紗 (名古屋大学)

九州支部では独自活動の一つとして、会員で、「気象学の向上に資する研究を行っている」、「気象学の教育・啓発活動を積極的に行っている」、「気象学を応用した活動で社会に貢献している」のいずれかの項目に該当する者を最大で3名選び顕彰している。2019年度は以下のとおり、1名を顕彰した。

受賞者：竈本倫平 (山口大学)

東北支部の独自活動の一つとして、支部研究発表会において優れた講演を行った支部会員から、原則として2名程度選び顕彰している。2019年度は以下のとおり、2名を顕彰した。

受賞者：鈴木健斗 (東北大学)、酒井貴紘 (福島地方気象台)

(3) 部外表彰等受賞候補者の推薦

関係団体等が主宰するいくつかの賞に対して、日本気象学会として候補者を推薦している。部外表彰等候補者推薦委員会が担当している。2019年度は日本学術振興会育志賞の候補者を推薦した。

2. 国際学術交流事業への支援・援助

(1) 渡航費の支援

国際学術研究集会等に出席して論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定の者に、申請によって渡航費の補助を行っている。資格は学会員に限定しないが、原則として修士論文提出程度の研究実績を要する者で、他から渡航費の援助を得られない者に限定している。

国際学術交流委員会が担当しており、2019年度は以下のとおり2名に補助することとした。

①申請者：関澤俣温（東京大学先端科学技術研究センター）

会議名：The 27th IUGG General Assembly

場 所：カナダ、モントリオール

期 間：2019年7月8日～18日

②申請者：柳瀬友朗（京都大学防災研究所）

会議名：100th AMS Annual Meeting

場 所：アメリカ合衆国、ボストン

期 間：2020年1月12日～16日

(2) 小倉特別講義

国内で開かれる国際学術研究集会の支援として、小倉義光・正子基金より招聘費等を補助し、国際学術交流委員会のもと組織した実行委員会が「小倉特別講義」を実施した。2019年度は、気象力学・気候力学の第一人者である英国レディング大学のBrian J. Hoskins教授を招聘し、以下のとおり秋季大会にあわせて開催した。

- ・開催日：10月30日
- ・開催場所：福岡国際会議場
- ・講義題目：The Dynamics of Hadley Cells

IV その他この目的を達成するために必要な事業の実施

1. 会員の異動状況

2019年度の会員の異動状況は下表のとおりである。近年の会員数の減少傾向は続いている。本年度は、会費の改定の影響もあり、一般会員の減少数がやや多かった。

会員種別		会員数		増減数
		本年度末 (2020年3月31日)	前年度末 (2019年3月31日)	
個人会員	一般	2,464	2,567	△103
	学生	369	332	37
	高年	254	255	△1
	終身	40	20	20
	合計	3,127	3,174	△47
団体会員	団体A	80	82	△2
	団体B	56	58	△2
	団体C	25	47	△22
	合計	161	187	△26
賛助会員		25	27	△2
名誉会員		15	15	0
計		3,328	3,403	△75

2. 役員を選任及び解任

2018年度総会で第40期理事20名を次の通り選任した。任期は、理事が2018年度総会の日から2020年度総会

の日までの2年間である。監事の任期は4年間で、2020年度総会までである。2019年度は役員の変更はなかった。なお、理事及びそれぞれの主担当は以下のとおりである。

氏名	所属	主担当
岩崎 俊樹	東北大学大学院理学研究科特任教授	理事長（代表理事）
瀬上 哲秀	元気象研究所長	副理事長，企画調整，気象災害
青柳 曉典	気象庁地球環境・海洋部地球環境業務課 地球環境観測ネットワーク企画調整官	天気編集
氏家 将志	気象庁予報部数値予報課予報官	庶務担当
榎本 剛	京都大学防災研究所准教授	電子情報，人材育成・男女共同参画
小池 真	東京大学大学院理学系研究科教授	岸保・立平賞候補者推薦
佐藤 薫	東京大学大学院理学系研究科教授	学会賞候補者推薦
佐藤 正樹	東京大学大気海洋研究所教授	気象集誌編集，正野賞候補者推薦
塩谷 雅人	京大学生存圏研究所教授	学術
新保 明彦	気象庁地球環境・海洋部気候情報課 異常気象情報センター予報官	会計担当
竹見 哲也	京都大学防災研究所准教授	SOLA編集，奨励賞候補者推薦
坪木 和久	名古屋大学宇宙地球環境研究所教授	気象研究コンソーシアム，松野賞候補者推薦
仲江川 敏之	気象研究所気候研究部室長	講演企画
中村 尚	東京大学先端科学技術研究センター 副所長・教授	気象研究ノート編集，部外表彰等候補者推薦
早坂 忠裕	東北大学理事・副学長	堀内賞候補者推薦
平松 信昭	一般財団法人日本気象協会防災ソリューション事業部担当部長	教育と普及
廣岡 俊彦	九州大学大学院理学研究院教授	名誉会員推薦，地球環境問題
堀之内 武	北海道大学地球環境科学研究院准教授	山本賞候補者推薦
余田 成男	京都大学大学院理学研究科教授	藤原賞候補者推薦
渡部 雅浩	東京大学大気海洋研究所教授	国際学術交流

また、監事は、以下のとおりである。

氏名	所属
鈴木 靖	一般財団法人日本気象協会技師長
高谷 康太郎	京都産業大学理学部教授

3. 声明・提言・要請・要望の発出

気象学会の活動に密接不可分な活動等に関連する事案及び依頼機関等のこれまでの活動等並びに今後の活動等において気象学・大気科学との密接な関連性が認められる事案に対して、気象学会の目的を遂行するために声明・提言・要請・要望を發表することとしている。

2019年度はこれらの発表はなかった。

4. 会議等の開催

(1) 社員総会

全ての個人会員で構成される社員総会は学会の最高意思決定機関であり、年1回春季大会の期間に開催している。2019年度は、2019年5月16日につくば国際会議場で開催した。

総会においては以下の議案を審議し、議案1、2、3については、総会参加票による参加者を加えて賛成多数で承認した。

- ① 審議事項
 - 議案1. 2018年度事業報告
 - 議案2. 2018年度決算報告
 - 議案3. 2018年度監査報告
- ② 報告事項
 - 報告1. 2019年度事業計画
 - 報告2. 2019年度収支予算

(2) 理事会

理事会は原則として2か月に1回開催し、必要に応じみなし決議（定款第36条に基づき、全理事の書面又は電磁的方法による同意が得られた場合）による理事会を開催した。理事20名、監事2名によって理事会を構成しているが、理事長は必要に応じて支部長等の出席を求めて開催することが出来る。2019年度の理事会議題（協議事項）は以下の表のとおりである（定常的な報告事項は省略）。

開催年月日	協議事項	協議の結果
第40期第9回理事会 (2019年4月15日)	1. 第40期第8回理事会議事録の確認	みなし決議で承認
	2. 2018年度事業報告・2018年度決算報告・2018年度監査報告について	〃
	3. 2019年度総会資料及び参加票について	〃
	4. 公益社団法人日本気象学会 役員報酬・退職金規程の一部改正について	〃
第40期第10回理事会 (2019年5月15日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 2019年度総会について	〃
第40期第11回理事会 (2019年7月1日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 2019年度総会議事録の確認	〃
	3. 第40期第10回理事会議事録の確認	〃
第40期第12回理事会 (2019年9月19日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 第40期第11回理事会議事録の確認	〃
	3. 謝金支給内規の制定について	
	4. 基本財産の処分について	
	5. 選挙管理委員長の選任と第41期理事候補者の定数について	
	6. 公益社団法人日本気象学会北海道支部規約に改正について	〃
第40期第13回理事会 (2019年10月28日)	1. 第40期第12回理事会議事録の確認	全会一致で承認
	2. 会員の新規加入等について	〃
第40期第14回理事会 (2020年2月12日)	1. 第40期第13回理事会議事録の確認	全会一致で承認
	2. 会員の新規加入等について	〃
	3. 2020年度事業計画・収支予算書・資金調達及び設備投資の見込みについて	〃
	4. 支部交付金の見直しについて	〃
	5. 前渡金等取扱要領の一部改正について	〃
	6. 事業費配布割合の基準に関する規則の一部改正について	〃
	7. 職員規則の一部改正について	〃
第40期第15回理事会 (2020年3月13日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 第40期第14回理事会議事録の確認	〃

(3) 支部長会議

公益社団法人移行に伴い、支部からの理事の選任が廃止されたことから、各支部との連携強化を図るため新たに支部長会議を設置した。新たに設置した支部長会議は、理事長・理事・監事・支部長により構成され、原則として年1回、理事長が招集して開催することとしている。

第40期第2回支部長会議

日付：2020年2月12日

議題：2019年度支部活動報告

2020年度支部活動計画

秋季大会の取り組み状況

支部交付金の見直しについて

学会運営全般に対する意見交換

(4) 有識者会議

有識者会議は、有識者・理事長・理事・監事によって構成し、理事会の諮問事項を審議する。有識者は諮問事項に適任な方に理事長が委嘱する。

地球温暖化の進展に伴い、異常気象や局地的大雨などの極端現象の増加が懸念されている。こうした課題への対処として、地球環境の監視、大雨の監視等に不可欠な地球観測システムの強化およびその利用技術の高度化が重要な課題となっている。このような状況に鑑み、第39期では、「地球観測の強化に向けて日本気象学会は何をなすべきか」を諮問事項とした。2019年度は、今までの広範なご意見と議論を基に、「地球観測の強化に向けて日本気象学会は何をなすべきかー地球観測のあり方についてー」を学術委員会においてとりまとめ、「天気」第66巻6号に掲載した。

(5) 各種委員会

日本気象学会では23の委員会を設置して、公益目的事業1～3を分担して実施している。なお、上述した3つの事業報告の中で言及しなかった事業については、設置している各委員会活動の一環として実施している。

以下に2019年度に、各委員会で実施した事業についてその概要を記載する。

・ 電子情報委員会

学会サーバやメーリングリストの管理及びウェブサイト掲載情報の更新・機能充実、障害対応に加えて、予稿集の電子版配布やウェブサイトのセキュリティ強化を実施し、加えて情報基盤のクラウド化を進めた。また、会員サイトの運用を開始した。

以上